風景進化論

上から《枯野》（1980 年）《枯野》（1994 年）《冬の華》（2002 年）　いずれも部分

2012 年 2 月 25 日（土）～6 月 17 日（日）

休館日　／ 月曜日　（祝日の場合は翌火曜日）

開館時間　／ 冬期（11 月～3 月）午前 10 時～午後 4 時 30 分
夏期（4 月～10 月）午前 10 時～午後 4 時
※入館は閉館の 30 分前まで

入場料金　／ 大人 800 円（600 円）　大学・専門学生 600 円（400 円）
中高生 400 円（200 円）小学生 200 円（100 円）幼児無料
※括弧内はリピーター料金　過去の入場券の半券のご提示でご利用いただけます

関口雄揮記念美術館

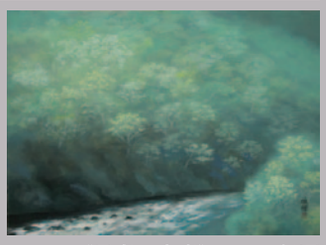
湾曲した海岸線と漁村、落葉松の林と地平線まで広がる曠野、植物が重なり合う平原とひとすじの小川･･･関口はしばしばこれら類似したモチーフや構図の風景を、複数の作品にわたって描いてきた。否定的な見方をするならば、こうした反復は、画家の創造性や進歩性の不足の証左として指摘されうる点である。しかしながら関口が、「風景を内面的な表現として見せるためだけの作品ではなく、自分に訴えるための、反省のための作品をこれからつくりたい。」※と述べているように、「反省」という視点からこれを評価するならばそのかぎりではないだろう。反復によってモチーフに対する感得を深め、構図を洗練し、技法を吟味しなおして、一度描いた風景をよりよい風景へと進化させる。これを関口が目論んでいたと考えれば、ひとつの風景をひとつの作品において完結させないことの、積極的な意義も見出すことができるように思われる。このとき反復は、「反省」のための有効な手段となりうるのである。

本展では、関口が反復して描いた代表的な風景の作品を取りあげ、ひとつの風景に対してふたつ以上の作品を年代順に展示する。細部の描写、色調、構図などの変化に着目しつつ、ひとつの風景が年を経て反復されることによってどのように進化してゆくのか、比較してご覧いただきたい。そこには、その風景の中になにを見たのか、その風景を描くことでなにを訴えようとしたのかという、関口の内面における模索と葛藤が浮かび上がってくるはずである。

※「自然の光と空気を描く巨匠　関口雄揮」展図録（深谷ビッグタートル　1998 年）　p37

《雪原》部分（1987 年）

第二展示室



《早春の水音》2005 年頃

早春から初夏にかけての作品を紹介する。秋や冬のイメージが強い関口の世界に時折登場するこれらの作品は、青や緑といった日本画の絵具の美しい色彩を存分に発揮して、生命感あふれる世界を鮮烈に描き出している。また北海道の春を描いた作品は、静かに訪れる春の気配と色濃い冬の冷気がせめぎあう、独特の緊張感を感じさせる。

第三展示室

「植物スケッチ　ふきのとう」
1977 年

「植物スケッチ」を紹介する。写実を旨とする関口は、制作にあたり、徹底した細部の描写によってリアリティーある画面を創り出すことに細心の注意を払っていた。生涯続けられた植物のスケッチは、その根幹をなす重要な作業であった。また色画用紙にパステルで描かれたこれらのスケッチは、関口の独特な色彩感覚を示す資料として興味深い。

周辺地図

交通

■地下鉄・バスをご利用のお客様
地下鉄南北線「真駒内」駅バス 2 番乗り場より中央バス乗車
「芸術の森入口」下車（所要時間 14 分　約 15 分間隔で運行）
真駒内方面に徒歩 1 分

■お車をご利用のお客様
札幌市街中心部より国道 453 号線を南下
支笏湖方面に約 40 分

関口雄揮記念美術館
〒005-0853　札幌市南区常盤 3 条 1 丁目（芸術の森入口）
TEL 011-593-5050　　URL http://www.sekiguchi-muse.jp/